

2012 年度「改正 SOLAS 条約における海洋セキュリティ政策の検証」報告書

本研究では、政策の PDCA マネージメント・サイクル (Plan, Do, Check, Action) を用いてポートセキュリティ政策をとらえ、フィールドワークに基づいて評価検証を行った。そして、国際港湾の予備調査や関連資料等に基づき、問題意識を整理し、国際条約の国内法化の観点から考察した結果を、公益社団法人日本航海学会の平成 24 年度春季研究会（平成 24 年 5 月 25 日）において発表し、関連する分野の研究者等とディスカッションを行った。また、我が国の国際港湾の本調査を実施し、その研究成果を公益社団法人日本航海学会の第 127 回講演会（平成 24 年 11 月 23 日）において発表し、学会の論文集に掲載された（平成 25 年 3 月 25 日発行）。

この種の研究は、海洋セキュリティの重要性を広く社会に認識させることができるとともに、国民の海洋立国日本に対する理解度も高まり、社会に大きく貢献することができ、本研究の新たな価値が見い出されると思われる。

なお、研究成果は、学会及び論文にて、下記のとおり公表した。

学会発表：日本航海学会 第 127 回講演会予稿（2012 年）：I-11 海事セキュリティ確保の国内実施の評価，恒吉隆郎 松本宏之 野中健一

論文：恒吉隆郎 松本宏之 野中健一：ポートセキュリティに関する国際港湾施設の評価，日本航海学会論文集 128 号，pp.65～71（2013）